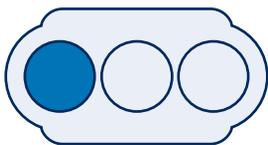
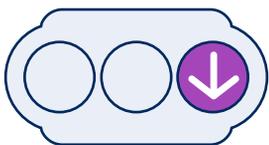
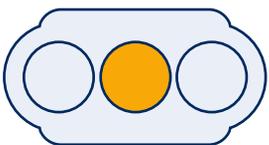
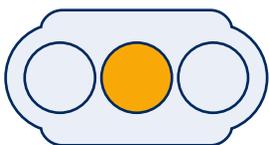


シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2024年8月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
強気の見通しを維持しています。ファンダメンタルズは良好であるほか、8月上旬の調整後、一部のテクニカル指標は「売られすぎ」の水準であることを示しました。	見通しを弱気に引き下げました。運用チームがベースシナリオとして想定する「ソフトランディング」を踏まえると、短期債を中心にバリュエーションは割高な水準にあると考えます。	中立の見通しを維持しています。バリュエーションの割高感が緩和したことや良好な金融情勢を好感しているものの、マクロファンダメンタルズを巡る懸念が高まっていると考えます。	全体として中立の見通しを維持しています。経済成長を巡る懸念から広範なコモディティ市場は売り圧力を経験しました。ただし、供給が豊富であるほか、中国の需要減退を踏まえ、中立としています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 米国経済がソフトランディングを達成するとの見方や良好な流動性、利益成長に対する期待感が引き続き支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州株式市場では、一部の銘柄が市場を牽引していることや業績期待が後退していることを踏まえ、弱気の見通しを維持しています。
	日本	 8月上旬の調整を受けて上昇余地はあると考えますが、リスク・リターン特性が魅力的ではないとみて、中立の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	 台湾や韓国などは製造業の回復から恩恵を受けるとみており、強気の見通しを維持しています。ただし、中国については、不動産セクターの低迷から経済成長率は減速しており、中立の見通しを維持しています。
	新興国	 多くの新興国はインフレ抑制を実現しており、より信頼性のある財政政策が行われています。製造業の景気サイクルからも恩恵を受けるとみて、強気の見通しを維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 運用チームが想定する「ソフトランディング」を踏まえると、フロントエンドを中心に割高であると考えます。今後、米国債はアンダーパフォームする可能性があるため、弱気の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)	 中立の見通しを維持しています。短期金融市場は、既に年内3回程度の利下げを織り込んでいます。
	新興国 (現地通貨建て)	 魅力的なバリュエーションを提供しているようにみえますが、スプレッドの拡大は財政懸念がある少数の国によるものです。これらの国によるボラティリティや個別リスクを懸念し、中立の見通しを維持しています。
	インフレ連動債	 インフレ指標の下振れが続いており、見通しを中立に引き下げました。ただし、消費は依然として堅調で、労働市場も安定していたことから、深刻な景気後退に陥るリスクは低いとみています。
投資適格社債	米国	 バリュエーションの割高感は緩和したものの、未だに割安ではないと考えます。マクロファンダメンタルズを巡る不確実性がリスクとなっているものの、豊富な流動性を踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 米国投資適格社債と比べて優れたリスク・リターン特性を提供しているとみています。バリュエーションは魅力的にみえますが、強弱が入り混じる経済指標を踏まえ、中立の見通しとしています。
	新興国 (米ドル建て)	 良好な企業ファンダメンタルズやテクニカル要因が支援材料になる可能性はあるものの、バリュエーションの観点で魅力的ではないとみて、中立の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国	 バリュエーションの割高感は緩和しましたが、割安な水準ではないと考えます。「満期の壁」は上手くコントロールされていますが、企業ファンダメンタルズは悪化基調にあるため、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 バリュエーションは相対的に魅力的であると考えますが、マクロ経済に対する懸念が高まりつつあるため、中立の姿勢を維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 中国からの需要は減退していますが、OPECによる減産を受けて、需給はバランスを保つ可能性があります。原油相場はレンジ内での取引が続くとみており、中立の見通しを維持しています。
	金	 金利低下環境においては、金の投資魅力は相対的に高まるとみています。そのほか、テクニカル要因が下落余地を限定するとみて、強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 製造業関連指標の改善はやや停滞しました。中国当局による政策は支援材料となる可能性があります。金属需要の回復には未だ至っておらず、中立の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 強気に引き上げました。米国経済がソフトランディングに向かった場合、金利上昇圧力がかかり、米ドルにとって追い風になるとみています。また、安全通貨としての機能から、景気後退に対するヘッジになると考えます。
	ユーロ	 弱気の見通しを維持しています。マクロ経済見通しが軟調であることや、米国との金利差、景気サイクル等を踏まえて先行姿勢を弱めています。
	日本円	 依然として割安な水準にあると考えますが、足元の円高基調のトレンドを追従することには否定的であり、中立の見通しを維持しています。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デフレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。



創業から200年超、日本に根ざして50年。
 卓越した資産運用サービスをお届けするため、
 私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。
 今また新たな投資機会の発掘に向け、
 シュローダーは動き出しています。

